

世田谷区民会館・区庁舎を考えるシンポジウム

「半世紀を迎えた世田谷区民会館+区役所庁舎」Part5

《世界遺産ル・コルビュジエと世田谷区民会館区庁舎をつなぐ》

2009年7月の第4回シンポジウム(タウンミーティング)から7年を経て、2016年9月18日に世田谷区の国士舘大学多目的ホールにて、表記のシンポジウムが開催された。このシリーズ5回目となる今回は、2016年7月の東京・上野の国立西洋美術館を含む17の建築群の世界遺産登録によってこのところ高まりを見せているル・コルビュジエへの関心と、その建築思潮に連なる前川國男への評価の高まりを機に企画された。

冒頭の地域会代表のあいさつに続き、松隈洋氏による掲題をテーマとした講演では、ル・コルビュジエと前川國男の関係性についてエピソードを交えてのお話があり、又当時の世界の建築事情や日本の建築事情についての解説をする中で、当時の日本の建築界において世田谷区民会館・区庁舎への評価はたいへん高いものであったと述べられた。前川國男も設計に関わった国立西洋美術館の設計・竣工と世田谷区民会館・区庁舎の設計・竣工とは殆ど同時期に相前後しており、この二つの建築の竣工は同じ雑誌のページを飾っているが、扱いは世田谷区民会館・区庁舎の方が関心度が高かったのではないかと、という見解も示された。

最近竣工した、やはり同時期の前川國男設計の京都会館の改修工事に関連して、必要な改修や機能更新を行いつつも使い続けてゆくことの重要性を説かれた。

続いて登壇した石川公彌子氏は、「新庁舎が示すべき世田谷のビジョン」と題して、ユーザーの視点から区庁舎の今日的有用性について述べられた。政治学がご専門の石川氏は、新庁舎は世田谷区が抱える様々な行政課題へのビジョンを示す良い機会ととらえ、石川版の提言を示された。

次いで登壇の鯉坂徹氏は既存建築物の補強・改修の事例を示してその有効性・実現可能性を説明され、世田谷区民会館・区庁舎においても既存を活かした改修案が可能であると述べられた。

最後に登壇した黒木実氏からは、2004年以降今日に至るまでの本庁舎整備検討の主な経緯が説明され、自らも審議

委員として参加された「世田谷区本庁舎等整備基本構想検討委員会」の審議について報告され、今後の基本構想作成、設計者選定、基本設計、実施設計などの各段階での区民参加の必要性を述べられた。

後半、野沢正光氏を進行役にパネリスト4氏によるディスカッション及び会場の参加者との意見交換が行われた。石川氏による区民の視点を軸にディスカッション・意見交換が展開され、

- ・区民が集まりたくなるコンテンツを用意する必要がある
- ・用途が逐次変えられるような使い勝手の良いスペースが求められている
- ・サービスの充実を考えると、5支所の活用が求められる
- ・区民会館集会所等の管理方式の改善が区民利用の促進に欠かせない
- ・スペースを用意するのみならず、どのように使われることを想定するのか、が問われている
- ・この建物はあなたのものでしょ、というメッセージ性のある公共施設が求められている
- ・既存建物の問題点を指摘されているが対応可能か？
→耐震や機能更新は改修により対応可能と考える。日影や道路境界などの法的不適合は建築審査会にかけるなどして対応可能ではないか
- ・他区の庁舎には類を見ない広場空間があることの重要性、価値をもっとアピールすべき
- ・建物保存のみを目的とせず、区民参加の良い事例として記憶に残るような展開が望ましい

などの意見が述べられた。

折しも区では「世田谷区本庁舎等整備基本構想」に関するパブリックコメントを募集中で、区民の方々のこの問題に関する関心も高まっている。

既に DOCOMOMO JAPAN に選定され、世田谷区地域風景資産にも選定されているこの世田谷区民会館・区庁舎そしてケヤキの広場が、これからも区民の暮らしの舞台であり続けることを願うばかりである。

(世田谷地域会代表 柿崎豊治)